

経済における安全保障と軍における安全保障における世界情勢と新たな自己スタンディングポイント

黒田インターナショナルコンサルティング
黒田 毅

世界における安全保障は、国家における最優先事項であり、新たに今日語られるようになった経済の安全保障とともに、自国の安全性を唯一与えることは今日の世界情勢において考慮されなくてはならない。

これらは軍事バランスの崩壊が存在し、新たな世界の現実を予測できるものであり、新たな未来における社会構築は先端産業や基幹産業、ライフラインの維持する産業基盤を明確に保持しなくてはならないのである。

これらは、NATO,AUKUS,イスラエルという枢軸が、独自経済安全保障とともに、絶対的世界における自己プレゼンスを模索し、新たな世界政府の樹立を求めているのである。またこれらは世界の統一と新たな世界のルールやシステム、マネージシステムを提案するものである。

これら背後には巨大国際金融資本が存在し、彼らの提案する安全保障と正義が世界を有しているのである。

これらにおいてアメリカの軍産複合体がリードする第3次世界大戦が模索されるとき、世界の分断と2分化が与えられるものである。

これら現実へ独自安全保障と外交政策を行うことが、自己安全保障政策の確立であることは正しい。

これらは、独自外交への転換と新たな自己安全保障政策における世界の現実への参加を提案するものである。

これらは明らかに独立という新しい自己基準をアメリカへの従属から行い、全ての世界の現実に対して独自外交政策における現実への対応を提案するものである。

これら世界の2分化への関与を行わないことは、第3極の形成を求め、自己世界ビジョンにおける世界との連携を求めることができるのである。